

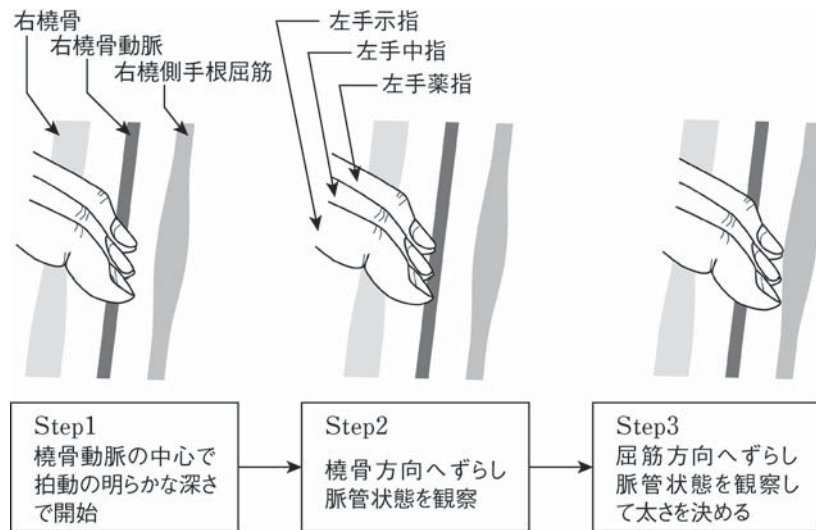


図6 左右の移動について

ポイントは、観察位置を確定し左右にずらして拍動の様子を観察することです。左右に移動させる幅は、拍動している脈管の中心から橈骨縁の間の中央と、脈管の中心から屈筋縁の間の中央が基本的な幅です。

3 …大小判定の方法

3指を左右に動かし拍動の状況を観察して、脈の大きさをどのように決定するか、正常な太さから説明していきましょう。

①正常な太さ

図7のように脈の左右へ指をずらしたときに、指腹の横に拍動を感じる場合が正常な太さ、つまり「不大不小」といことができます。

左右へ移動する程度は、橈



図7 正常な太さの場合

骨と橈骨手根屈筋の幅によって決まります。そのためこの幅が太さを決める基準となるのです。

②脈が太い場合

脈が太い場合は、中心位置での拍動と左右にずらしたときの拍動がほとんど同じ強さを感じる場合を指します。

正常な太さでもずらしたときは拍動を感じますが、指下の存在感はあまり感じません。一方、太いときは存在感があるので弁別することができます。



図8 太い脈の場合

③脈が細い場合

脈が細い場合は、中心位置での拍動は感じますが、左右にずらしたときの拍動はほとんど感じないか、あるいはかすかに感じる程度です。



図9 細い脈の場合



脈の速さを決める

1 …脈の速さを決める基準

みなさんご承知のように、脈の速さを決める基準は時間です。特に秒針のついた時計があれば十分です。脈の専門書では、観察者の1呼吸に被験者の脈が何回拍動するかによって遅数を判定しています。実際にやってみ